

歌い踊り奏でる 日本の四季

50th anniversary

国立劇場開場50周年記念

我が国の自然と文化に育まれた多彩な伝統芸能を、四季になぞらえ、春は邦樂 夏は琉球芸能、秋は雅楽、冬は日本舞踊とめぐります。国立劇場開場五十周年を寿ぐ、珠玉の四演目にとってご期待ください。

序幕の春は、長唄と三曲の掛け合による「新松竹梅」です。松竹梅や鶴龜を歌い込み、様々な変化に富んだ祝儀曲。唄や三味線、囃子、箏など多彩な邦楽器が用いられ、それそれに聴かせどころの多い大曲です。杵屋吉之助・杵屋佐吉・堅田喜三・久・萩岡松龍・野村村崎・山ほか、総勢十七名の豪華出演者による大合奏で、幕開きを飾ります。

夏は、酷暑に人心地を与えてくれる扇に感謝する風情を描いた女踊り。「鶴間節」は軽快なアンボンにあわせた歯切れのよい楽しい踊り。阿嘉修・新垣悟・嘉数道彦・金城真次・西門悠雅の若手男性による躍動感あふれる群舞です。「月以下の戯れ」は相思相愛の男女の逢瀬を描いた見応えのある創作舞踊です。芸術祭優秀賞受賞の玉城盛義と女形に定評のある東江裕吉が踊ります。次代をつなぐ気鋭の演者による一幕です。

秋は、現代雅楽の傑作として名高い「秋庭歌」です。移りゆく秋の庭の彩りをイメージしたこの曲は、国立劇場座敷作品として昭和四十八年に初演されました。古典雅楽にはない新鮮な音の構築が大きな反響を呼び、今日まで数多く再演され、「現代雅楽の古典」としての風格も漂います。作曲者武満徹の没後二十年にあたる今年、雅楽演奏団体伴奏の演奏をお聴きいただきます。

そして、本公演の掉尾を飾る冬は、日本舞踊「雪の石橋」です。元は江戸時代の変化舞踊で、平成六年国立劇場歌舞伎公演で復活上演しました。雪景色の清涼山で、文殊菩薩に仕える聖獣の獅子が、芸能の四季を万歳千秋と舞い納めます。華も実力も備えた花柳寿楽・花柳典幸兄弟による二匹の獅子の勇壮な舞踊に期待が高まります。



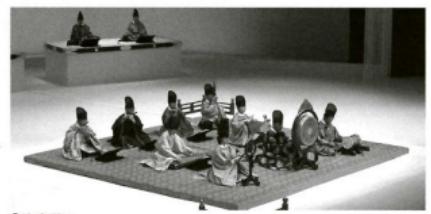
「新松竹梅」



「鳩間節」



「雪の石橋」



「秋庭歌」

平成28年10月1日(土)午後2時開演 [字幕表示がございます]

●入场料金(全席指定)

一般 3,600円／学生 2,500円

※障害者の方は2枚割引です。詳細はチケットセンターまでお問い合わせください。

●事務手数料(スルガ)がございます。

●予約開始は8月11日(木・祝)午前10時～

[インターネット]

【電話】国立劇場チケットセンター(午前10時～午後6時) パソコン <http://ticket.ntj.jac.go.jp/>

0570-07-9900 03-3230-3000 スマートフォン <http://ticket.ntj.jac.go.jp/m>

(一部電話番号)

●窓口販売開始は8月12日(金)【チケット発売 午前10時～午後6時】※窓口販売前に別枠でのお取り置きはございません。

●ブレイガイド チケット03-0570-02-9999【PC専用】<http://topplus.jp/> (パソコン) <http://topplus.jp/mobile/> (タブレット)



入会受付中！ ***チケットの先行予約・割引・イベント・会報誌などの特典満載！

お問い合わせはあぜくら会事務局 03-3264-0556 平日午前10時～午後5時(土・日・祝日・年末年始除く)

詳しくはあぜくら会HP <http://www.ntj.jac.go.jp/member>

東京・千代田区

国立劇場

大劇場 03-6866-7411(代表)
<http://www.ntj.jac.go.jp/>

国立劇場
あぜくら会